

令和6年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア 真砂 第2教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。

この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/6/29～R7/7/9> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/6/29～7/9>

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや 意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
【環境と体制の整備】 ・お子様安心して過ごせる環境が整っており、日々の支援に必要な人数が確保されている。 ・備品整備や衛生管理も社内で規定された基準に沿って行われ、個人情報も適切に管理されている。 ・お子様の活動内容に応じたスペースも確保されている。	・職員ごとに支援室内でのポジショニングを意識して支援をしており、児童に何かあった際にはすぐに職員が間に入ることができるような配置が取れている。 ・児童ごとに連絡袋やハンキングフォルダを使用し、個人情報を管理を適切に実施している。 ・活動内容によって、都度机の位置を移動することで限られたスペースで活動しやすいように環境設定をしている。	・児童が落ち着く環境が必要となったときは、静養室をより活用していく。また活用できるように静養室の環境を整えておく。 ・荷物がロッカーに入りきらない児童もいるため、荷物を入れる籠をロッカーの上に設置し、荷物の取り間違いがないようにしていく。
【職場環境と業務改善】 ・職員間で支援内容の振り返りや話し合いが行われ、課題や意見を出しやすい職場環境がある。 ・業務の効率化や改善に向けた取り組みも行われ、職員の資質向上のための研修機会も確保されている。	・朝礼や夕礼で児童の様子、プログラム内容、保護者や関係機関からの連絡を議題にあげ、職員間で共有を図っている。 ・月次で支援技法の研修を実施しており、研修の際に実際に支援している児童に当てはめて考えることで資質向上に繋がっている。	・保護者とのLINEの連絡がその日で完結しないときは、ツールを利用して次の日に担当職員へ対応を引き継ぎ、共有漏れがないようにする
【安全管理】 ・安全計画に基づいた研修や災害時の避難訓練が実施されており、怪我や急病時の対応手順も把握されている。 ・非常時にお子様の安心と安全に配慮できる体制も整っている。	・毎月プログラムにて避難訓練を実施し、訓練の度に課題点を見つけ、次回の訓練に生かす行動がとれている。	・避難時のあらゆる場面(高潮や火災など)を想定した訓練を実施し、クルー全員が行動できるようにマニュアルも更新していく。
弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや 工夫が必要な点等
【情報共有と連携】 ・学校等との情報共有において過去にトラブルがあったため、今後改善が必要である。	・職員間での共有漏れや連絡の見落としがあり、教室内での仕組み化やルール化がされていないことが挙げられる。	・職員ごとの役割をリストアップし、だれが確認するかを明確に記載して、連絡や共有漏れがないように仕組み化する。
【保護者への相談対応の経験不足】 ・子育ての悩みに対する相談対応において、十分な回答ができていないと感じる。	・特に障害児支援における経験の豊富な職員が少ないことが挙げられる。 （子育て経験のある職員はいる）	・月次MTGで保護者対応の研修や日々の朝礼、夕礼で保護者からの相談に対する返答のMTG内で検討をした上で、保護者へ返答できるようにする。
【環境整備の継続的な改善】 ・お子様に分かりやすく安心して過ごせる環境の整備は進行中であり、静かな環境を作るためのスペース確保が課題となっている。	・児童に未就学児が多く、声の大きさを調節することが難しい児童が多く在籍しているため、児童自身が声が大きくなっていることへ気づけるような仕組みが必要である。	児童が視覚的に今の声の大きさを理解できるように『こえのものさし』を設置し、日々児童に意識してもらえるように始まりの会で伝えていく。